

9			<ul style="list-style-type: none"> ○日本独自の儒学として古学の思想を学習する。 ○古学から国学への展開と、国学による自文化理解の特徴を学習し、近代日本の在り方を考える。 ○朱子学に基づく江戸思想の多様な展開を理解する。 ○洋学の発展と西洋に対する「和魂洋才」の態度について理解する。 			た、それらを追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		
	10	期末考査						
	11	4 節	<ul style="list-style-type: none"> ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性・積極性 ④協調性・柔軟性 ⑤チャレンジ精神 ⑦意欲・関心・態度 	<p>日本の風土や伝統、仏教や儒教、西洋思想などの外来思想の受容と吸収に関して、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質を、生きる主体としての自己確立の課題と結び付けて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</p> <p>○材料鑑定の思想形成を通して、日本近代化の課題について考える。</p> <p>○国家主義の台頭や初期社会主義の展開を通して、日本近代化の課題について考える。</p> <p>○夏目漱石の文学や大正デモクラシーの展開を学習し、日本近代化の課題について考える。</p> <p>○革新的な西田哲学や和辻倫理学の形成と、近代化の前提としての、フラスコについて考える。</p> <p>○柳田泉らの自文化理解の在り方を学習する。また、環境問題を倫理的視点から考える</p>	現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に追究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。現代の諸事象における関心のある問題を積極的に選択し、自己の課題とつなげて意欲的に追究している。現代に生きる人間としての在り方生き方について考え、倫理的諸課題に進んで取り組もうとしている。	現代に生きる人間が直面する諸課題について、ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開について、資料集などを手掛かりとするほか、図書館、美術館、博物館などで資料を探索し、先哲などの考え方や生き方を自らの思索を深めるために活用している。現代の倫理的諸課題に関する諸資料をインターネットなどの様々なメディアを通して収集し、自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ。自然と人間とのかわり（生命倫理、環境倫理）、社会生活と自己とのかわり（家族・社会、情報化）、国際社会と自己とのかわり（異文化理解、国際平和）などの視点から、現代の倫理的諸課題を、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立つて主体的かつ公正に判断している。また、課題を追究し考察した過程や結果を、レポートにまとめ、発表や討論などを通して適切に表現している。	ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開について、合理的精神、民主社会の倫理、科学技術文明の在り方、人間の尊厳の自覚などについて、自己の生き方とつなげて理解し、社会参加や自己実現ともかわりながら、人格の形成に生かす知識として身に付けている。今日の生命倫理または環境倫理の問題については、家族や地域社会の在り方については、異文化の尊重または国際平和について、それぞれ現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題を、自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	発言② ノート整理①④ 課題提出① 討論②③
	12	2 編 1 章 1 節 2 節 3 節 4 節 5 節 6 節	<ul style="list-style-type: none"> ○ルネサンス人文主義が、近代の人間中心主義ヒューマニズムへと展開したことを理解する。 ○宗教改革が個人の自由を原理とする西欧近代社会形成の重要な契機となつたことを理解する。 ○モラリストの思想と理性主義へのパスカルの批判を考える。 ○近代科学および機械論的自然観の特徴を理解する。 ○近代科学の発展に大きな影響を与えたペーコンとデカルトの思想の特徴を理解する ○民主社会を形成する基本原理を、自然法思想や社会契約論の展開から理解する。 ○自律を人格の尊厳の根拠とするカントの思想を学習し、近代の人間尊重の精神を理解する。 ○ヘーゲルの弁証法的なものの見方、および弁証法の論理に基づく「人倫」の捉え方を理解する。 ○功利主義思想の特徴を理解し、功利主義と民主主義との関係や、義務・自由について考える。 ○実証主義や社会進化論、プラグマティズムの思想の特徴を理解する。 ○社会主義思想およびマルクスの人間観・社会観を学習し、現代の精神的貧困について考える。 ○キルケゴールの畢達哥ラスやニーチェの超人の思想を学習し、主体的自己の確立について考える。また実存思想を学習し、自由な内面的自己を確立する意義と、人間に責任を負う生き方を考える。 ○音楽が現代思想の主要な主題であることを理解する。 ○フランクフルト学派を学習し、自然と人間を道具化する文明について考える。 ○レヴィエストロースによる西欧近代の文明に対する構造主義の批判、フーコーによる理性と反理性性、レヴィナスによる自己中心からの離脱といった考え方に触れる。 					
1	卒業考査		<ul style="list-style-type: none"> ○シュヴァイツァーの生命への畏敬、ガンディーの非暴力主義の現代的意義を理解する。 ○ロールズの正義論、センの潜在能力の立場から、社会的な平等や福祉のありかたについて考える。 ○自己実現と幸福について考え、ポランディア活動等とおとした社会的連帯の意義を理解する。 					

4 評価基準

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深められたか（意欲・関心・態度）。他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立つて主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できたか（思考・判断・表現）。青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用できたか（資料活用の技能）。青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けられたか（知識・理解）

5 その他